

受託事業名

見附市市野坪町における新規住宅地街区計画策定の検討

発注者	見附市
受託期間	平成19年7月1日9年10月31日
プロジェクト主査	山下秀之
敷地分析/基本計画	山下秀之、曾宇泰子氏(元長岡造形大学教授)、丹洋祐
詳細設計	曾宇泰子
ドローイング	曾宇泰子、丹洋祐
ブローシャー	丹洋祐
プレゼン描画	桑野洋紀
CGムービー	山岸悠、諏訪優樹
共用施設イメージ	武井奈津美
戸建て住宅イメージ	山下秀之
アドバイザー	上川勇治氏(ランドスケープデザイナー、タウンプランナー)



はじめに

久住見附市長より「田園調布のような街並を考えたい」というお話をいただきました。田園調布は、大正末期に東京有数の新しい住宅地としてスタートを切り(1923年に販売開始)、住民の紳士協定(建ぺい率は5割以内、建物のセットバックは道路巾の半分以上、道路との境界には生け垣)や、多くの著名人が居を移したことから、高級住宅地として名を馳せるようになりました。地区設計にあたり、澁澤栄一の四男秀雄が陣頭指揮をしました。円形都市を思わせる放射状道路は、中心に位置する駅舎があってゆえのことですが、デザインの理由は以下、秀雄の回想で知ることができます。

「私はサンフランシスコ郊外のセント・フランシス・ウッドという住宅地が気に入った。土地に多少の起伏があって樹木と草花も多かった。その中心には、パリの凱旋門にある小規模のエトワール式道路ができていた。むろんパリとは比較にならない小規模のエトワールだったが、それはその住宅地に美しさと奥深さを与えていた。カーブのある道は、ゆく手が見通せないから人に好奇心と、夢を抱かせる。私は田園都市の西側に半円のエトワール型を取り入れてもらった。この分譲地のサイト・プランを依頼した矢部金太郎君に注文をつけたのである。矢部君は優秀な建築設計技師だったが、当時は田園都市会社の社員になっていた」

(澁澤秀雄『わが町』昭和46年)

当時の田園調布の雰囲気は、現在、失われつつあると言わざるを得ません。300~100坪単位だった宅地面積が1/2や1/3に分割され、小さな面積に所狭く住宅が建ち並びつつ変化しています。おそらく、遺産相続の関係で土地と建物を手放さざるを得ない住民が続出した結果と思われる。

このような現代社会の情勢を見据えつつ、今回、田園風景が色濃い「市野坪町」に、どのような田園住宅地を展開するべきか。次世代のニーズや感性に合致する田園住宅地とは、どのようなものか。それを見いだすことが目的となりました。

□ 見附市の土地構造

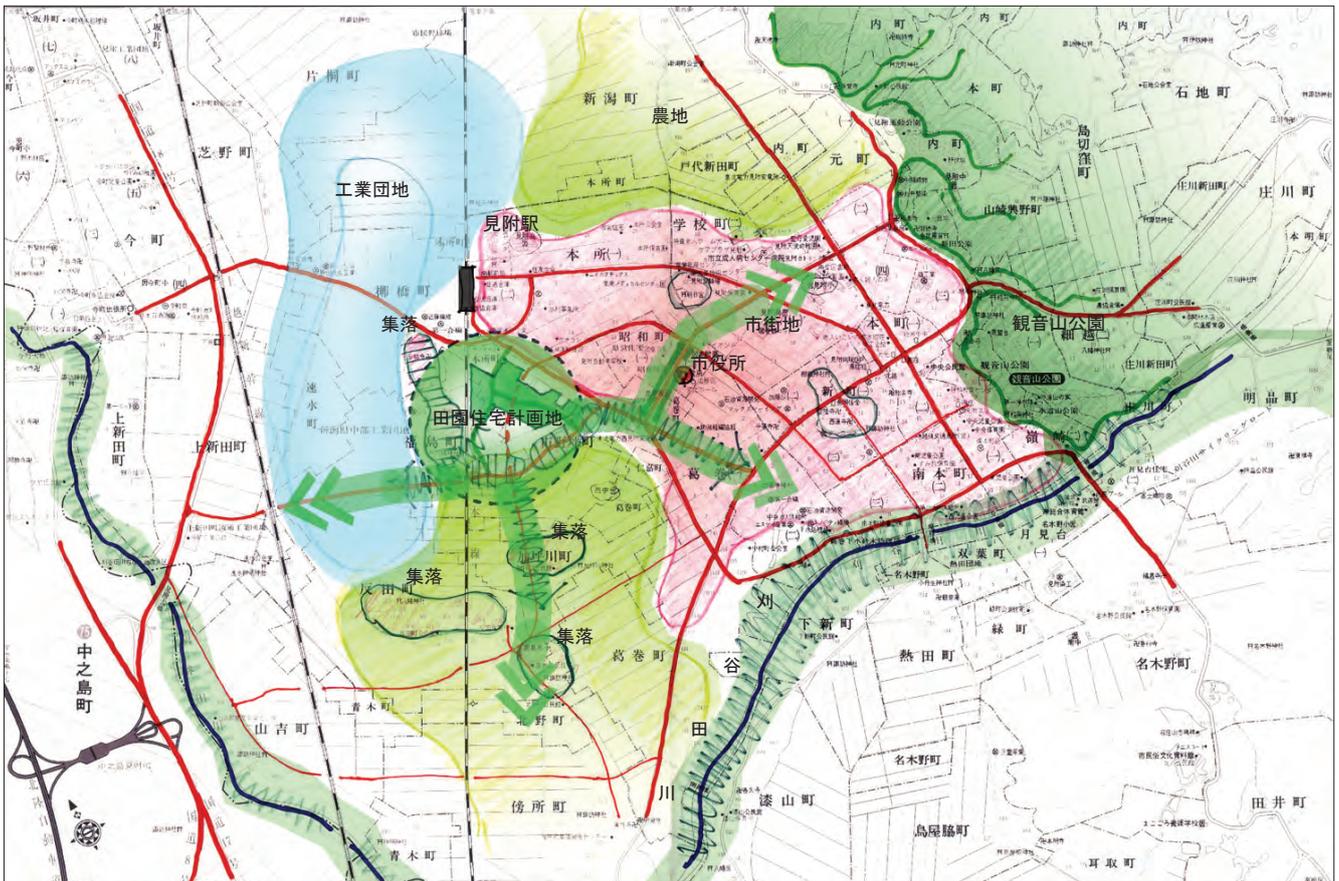
- ・地域環境構造の要素となりうる土地構造 (東側山地、刈谷田川、優良農地など)
- ・市街地は比較的平坦
- ・田園住宅地は将来見附市の地域環境構造 → 緑のインフラの核となるように

□ 見附市における敷地の位置

- ・市の西部信越線の沿って水田地帯、
- ・見附駅に近接し、信越線、新幹線にはさまれた工業団地に近い。
- ・東側に広がる市街地との間に位置している。
- ・信越線の線路をはさんで西側には屋敷林を伴う集落が点在している。



見附市による道路計画案



周辺状況図



敷地現況

計画主旨

□ デザインガイドライン

見附市から提示された計画ガイドラインは、以下のとおりである。

- 1 新市街地と産業団地に隣接する、利便性の高い「地の利」を活かす。
- 2 ガーデニング等が楽しめる「ゆったり」とした戸建や集合住宅の分譲
- 3 画一的な区割りを避け、「おもしろみ」「高級感」を演出する道路、宅地、公園、植栽等の配置。また、効果が期待できるものの設置。
- 4 住宅地内ではスピードが出せない道路。

□ デザインコンセプト

左記のデザインガイドラインに、以下の2つの系をかぶせるデザインコンセプトを提案するものである。

- 1 緑系
- 2 水系

見附市全体における「緑のインフラ」の核となるべく、質の高い環境を提供することを提案する。また、公共施設、あるいは商業施設の可能性も、あらかじめ検討する必要がある。

事業として「住宅地の環境の質を売る戦略」に着目し、全国で成功している事例を参照しながら、次ページの内容の検討を試みた。

計画概要

□ 前提となる平均宅地面積について

検討する上で重要なことは、下記のふたつの極(XとY)をとり持つバランスである。X寄りになると売れ残る可能性が高まり、Y寄りになると質の高い住宅地にはならない。

- X 住宅地の理想_美しい街並、アッパーレベルの住民、質の高い公共環境、安全性、自主協定
- Y 市場のニーズ_現実的な販売価格、売れ残りを避ける、入居者のレベルを限定しない

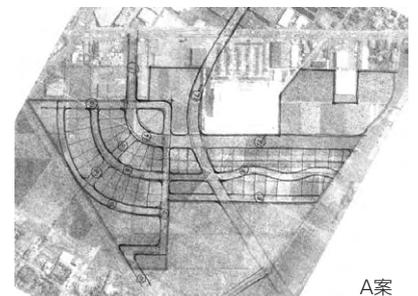
このバランスを決定的に左右するのは、平均宅地面積(=購買費用)である。この面積設定は、見附市にお願いし、最低限度面積として78.8坪(260m²)を提示していただいた。また、見附市の不動産協会の見解は、平均55坪でないと売れないと主張している。また、中之島みずほ団地では90坪は売れず、70坪が売れ筋という。よって本計画では、市場(周辺分譲地販売状況)からかけ離れるべきではないという判断より、平均宅地面積を80坪として検討を進めた。

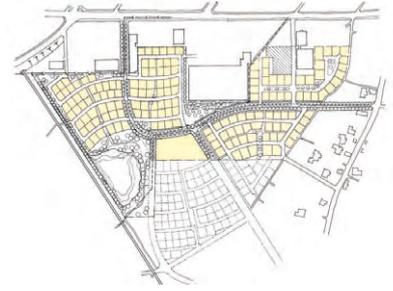
□ その他の考慮に入れるべき内容

見附市より、対象地に進入する道路の考え方、調整池の必要性、国有地の存在、取得が困難な土地、私立学校が所有している土地があること、以上を考慮に入れるようご指示をいただいた。

□ 宅地の拡張計画の可能性

対象地の南東に広がる農地も、将来、宅地に転用される可能性がある。それを見越して、あらかじめ宅地の拡張計画を立てておくべきと判断した。





1 基盤整備

市・土地開発会社などによる整備

1-1 水田の地盤改良（盛土）

- ・基準、地盤高をどのくらいにするか。
- ・盛土用の土の手当て。

1-2 水系の設定

- ・排水の流出先、雪処理方法の予測。

1-3 ガス中圧管の移設

2 緑のインフラ整備

市（土地開発会社など）による整備が望ましい部分

2-1 緑の骨組み

- ・住宅地全体の環境の質を高めるためには、環境インフラ（緑の骨組み）をしっかりと造る。
- ・緑地帯、公園緑地

2-2 市による整備

- ・住宅地内の道路、共用スペースなどを統一感のあるデザインや質にするためには、市による指導、施工が望ましい。

2-3 詳細設計

- ・宅地内道路や共用スペースなどの詳細は、各ブロック内の宅地割を決める段階で、改めてデザインを検討する必要がある。
- ・交通緩和の手立て、植栽など。

3 宅地ブロック整備

業者が整備、販売する部分

3-1 各ブロック内の宅地割付

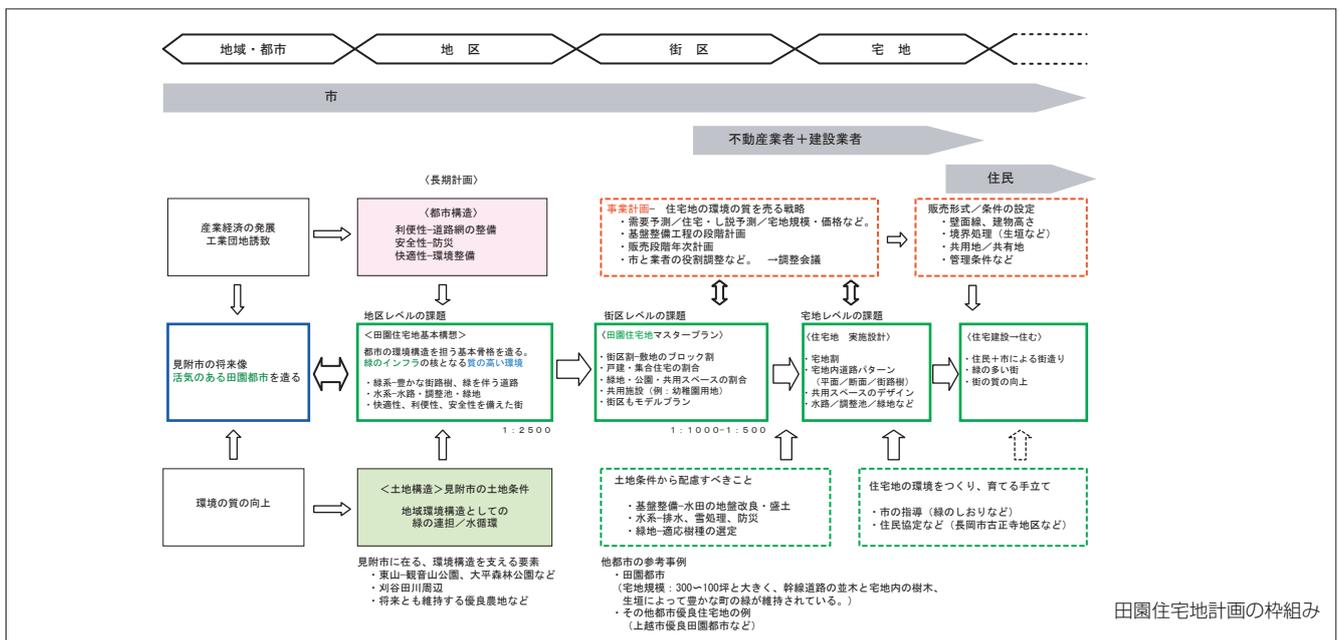
- ・平均宅地面積は80坪となっているが、需要予測などに基づいて、改めて大小の宅地割を考える必要がある。

3-2 販売形式の検討

- ・土地のみ分譲販売して、住宅建設は個々にする。
- ・土地+建物
- ・土地+建物は業者指定
- ・土地+建物プラン付など

3-3 販売条件の設定

- ・建築緑化環境協定を決め、販売時に条件として提示する。
- ・壁面緑
- ・建物の高さ
- ・境界処理（生垣、塀の高さ制限）
- ・共用地、共有地を設ける場合の取決めなど。
- ・管理条件など





街区のイメージ



緑系と水系のイメージ

□ 道路網

16m幹線道路から、宅地内道路への接続地点はなるべく少なくする。これにより、通過交通と、住民交通を明快に分けるようにする。関係のない車両が、宅地ブロックの中に入りにくくする。

□ 緑系

16m幹線道路は高木街路樹の並木道とし、「緑のインフラ」として計画対象地の価値をあげるものとする。高木の並木道は、東京の田園調布のイチヨウ並木、成城のサクラ並木とイチヨウ並木をあげるまでもなく、高級住宅地には欠かせない。

高木と低木のコンビネーションも緑量を多く感じさせる手段である。ツツジやオオムラサキ、あるいは生け垣は、アイレベルで緑を楽しむ上で重要である。特にヒューマンスケールの宅地内道路は、緑に囲まれた路地の雰囲気が必要である。緑なくして、高級住宅地は実現しない。

□ 水系

郡上八幡のように、街中のいたるところに水路がある環境は、現在、

急速に人気を集めている。もし、市野坪町で可能であるなら、16m幹線道路に沿って、水路緑地(2-3m巾)を作り、雰囲気を高めたい。

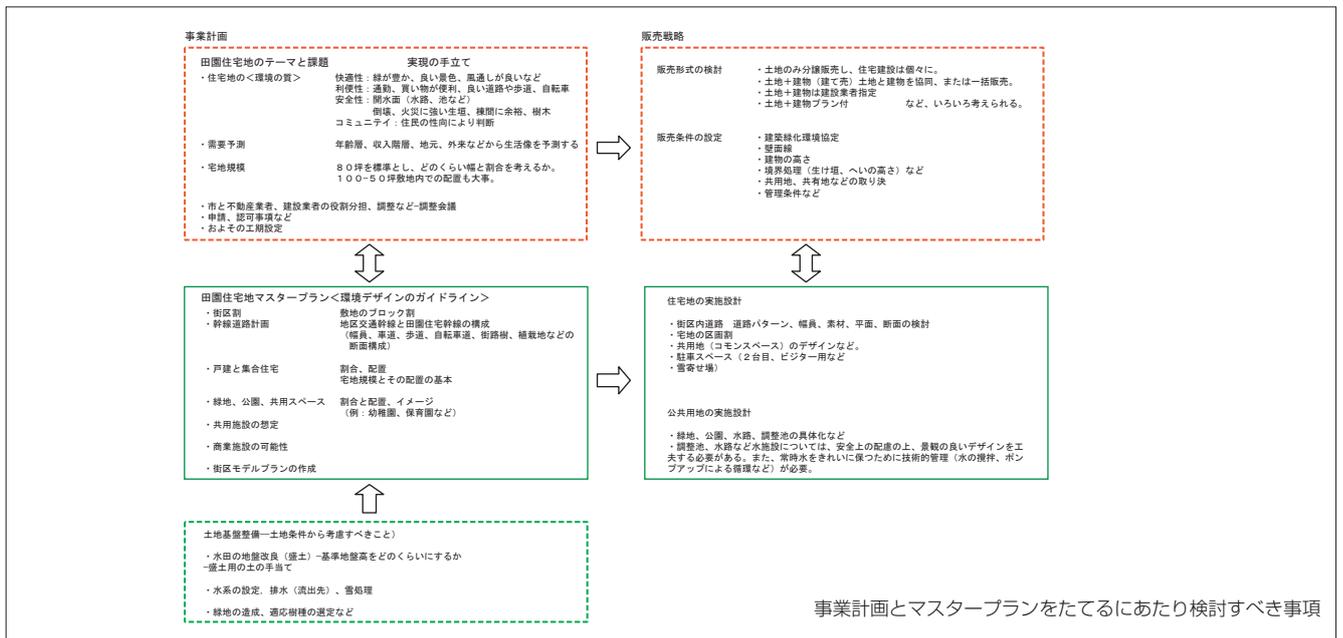
その水が流れ着く調整池は、公園として美しく整備し、住民の憩いの場、さらにJR列車の乗客への効果的なPRをしたい。北欧のデンマークの首都コペンハーゲンでは、街のいたるところに池があり、極めて美しい風景をつくっている。

□ 公共施設の可能性

住宅地の中心部に魅力的な公共施設があれば、地区住民の連帯意識は高まる。たとえば、複合施設として、地区集会場、老人福祉施設、子育て支援施設、幼稚園、保育園、などが考えられる。

□ 商業+住宅の可能性

代官山のヒルサイドテラスは、全体的に3階建て程度に抑えられ、しかも低層部分が商業施設、上層階が集合住宅となっている。おしゃれなテナントが入れば、地区の価値は高まる。カフェ、花屋、ベーカリーの3点セットは今風である。





□ マスタープランの特徴

マスタープランの設計条件は、大きく以下の2点である。

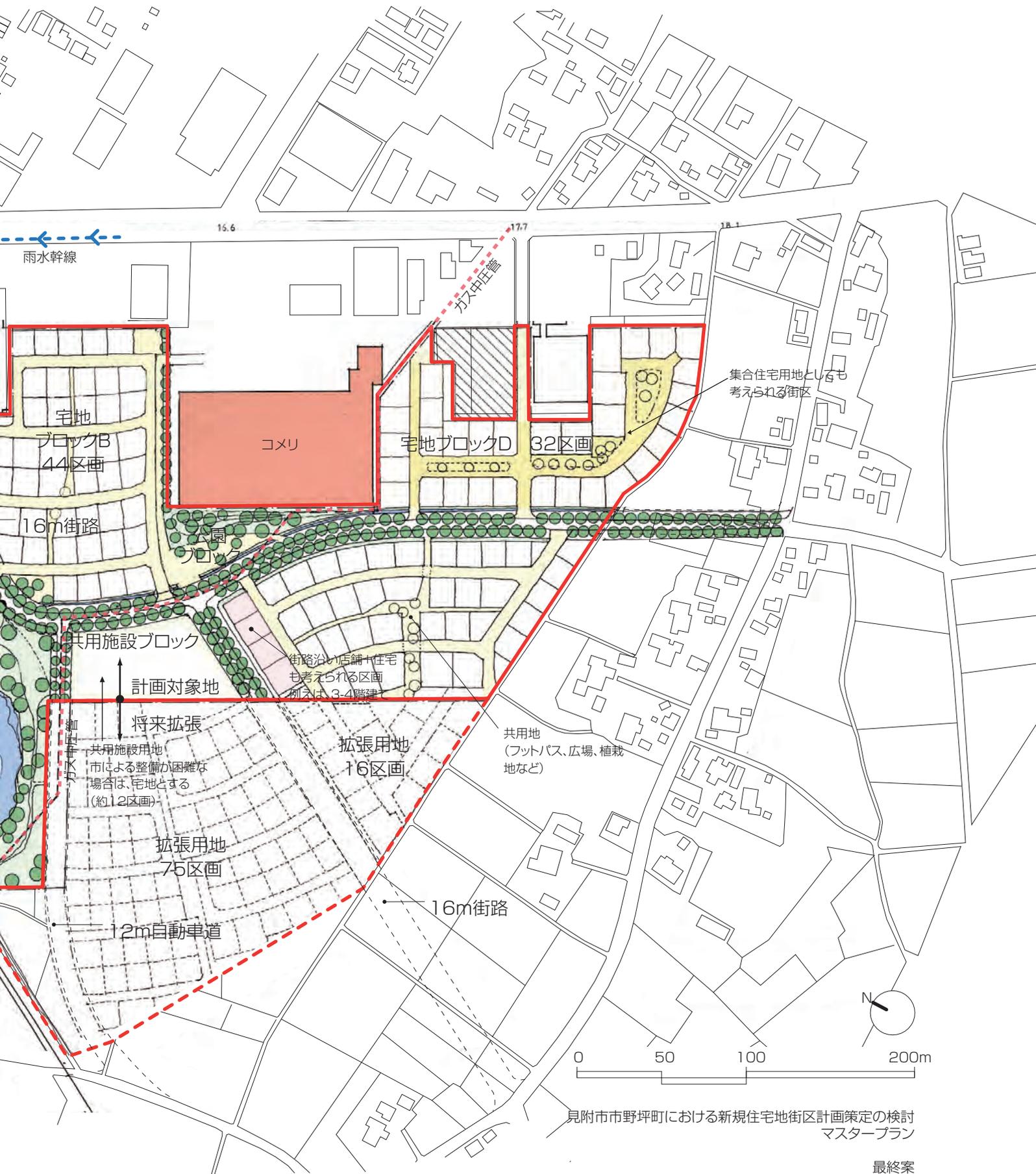
- ・ 見附市算定による望ましい平均宅地面積
→ 80坪
- ・ 見附市による街路レイアウトのプレスタディ
→ 想定される進入道路と周辺都市計画

見附市による街路レイアウトのプレスタディをふまえつつ、まず、田園調布の円形街路パターンが適合するかどうかを検討した。その結果、対象地の範囲内では、1/4円の中途半端な街路パターンにせざるを得ないことがわかった。

最終案は、以下の特徴を持つものである。

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| 1 田園幹線道路 | 16m田園幹線道路は、車道巾を6m、カーブを描き、速度制限を課す。 |
| 2 ブロック | 7ブロック構成で、うち4ブロックを宅地、3ブロックを公共とする。 |
| 3 ブロック区割り | 微妙に湾曲する道路で区割りし、雰囲気を高め車両走行速度を抑える。 |
| 4 宅地割付 | 平均宅地面積80坪で、建ぺい率を抑え、大きな庭をとれるようにする。 |
| 5 水路・調整池 | 16m道路の公園側に水路を沿わせ、雰囲気を高めながら調整池に流す。 |
| 6 街区の部分平面 | 並木や生け垣は、幹線道路と宅地内道路の雰囲気向上に不可欠である。 |
| 7 16m幹線道路 | 美しい並木道であり、歩道と自転車道の雰囲気は、見附市名所となる。 |
| 8 宅地内道路 | 7~7.5m巾の歩車混合交通とし、共有地を設け路地の雰囲気を高める。 |
| 9 公共・共用 | 大きな面積があてがわれ、環境の質を売る戦略に加担するものである。 |

調整池が不要の場合は
地区計画の条件に従い、
一部を公園に、一部を
宅地にする。

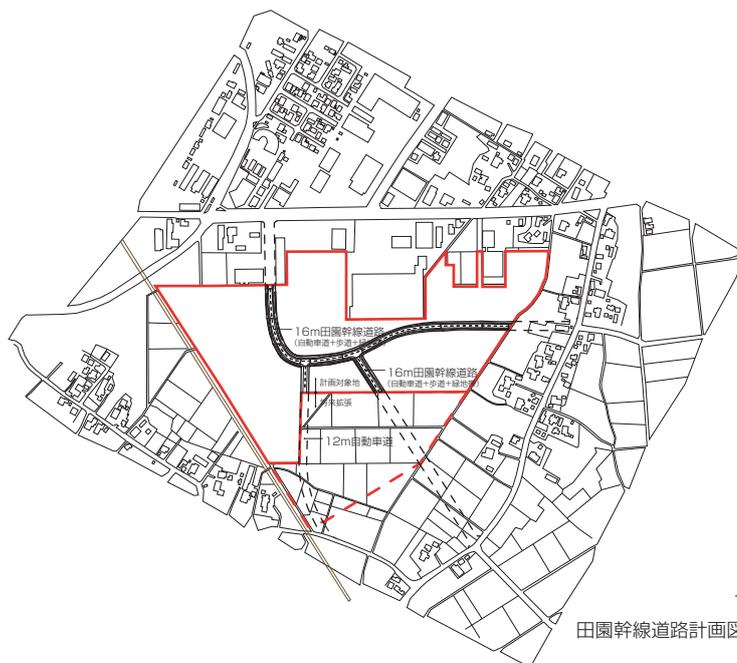


見附市市野坪町における新規住宅地街区計画策定の検討
マスタープラン

最終案

1 田園幹線道路計画図

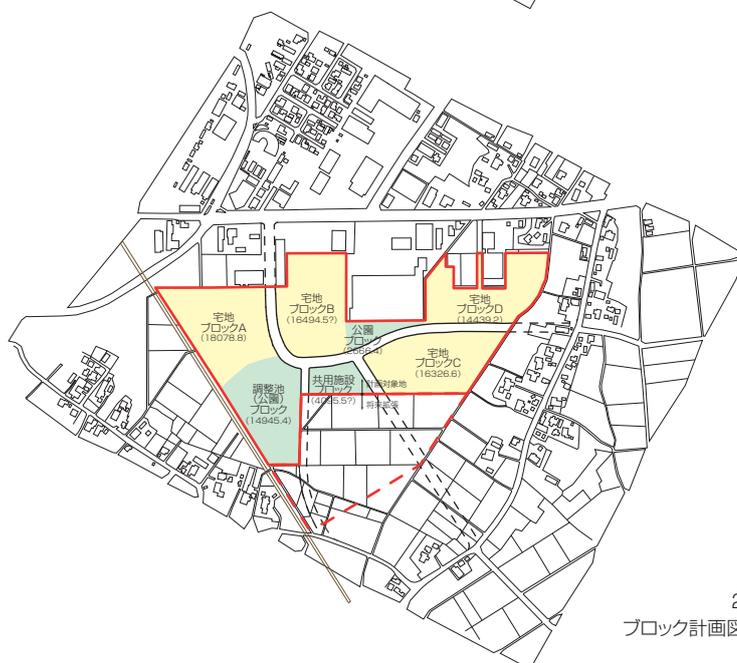
幹線道路は、宅地内への主要なアクセス道路となる。道路が緩やかにカーブすることで、自動車の速度を制限する効果を果たす。幹線道路には広い歩道を設け、自動車と歩行者との距離を保ち、安全性を確保している。また、歩道には、緑地帯、自転車道、並木道が沿っており、緑のインフラの軸をつくる。つまり、田園幹線道路は、交通のインフラ軸であると同時に、緑豊かな田園住宅地をつくる上で重要な、緑のインフラ軸でもある。



1
田園幹線道路計画図

2 ブロック計画図

全体を7つのブロックに分け、計画を行った。そのうち、4ブロックを宅地ブロック、2ブロックを公園ブロック、そして街区の中心には、公共施設ブロックを配した。公園ブロックのうち1つは、宅地内の雨水処理や冬期の除雪などを考慮し、調整池を設けて、その周辺を公園として整備することを考える。



2
ブロック計画図

3 ブロック区割り計画図

宅地ブロックは、宅地と宅地内道路と共用スペースによって構成される。宅地は、各住戸に十分な庭のスペースがとれるように十分な面積をとる。

宅地内道路は、歩行者と自動車の混合交通となるため、植栽やハンブなどを用いた安全性の確保が、有効であると考えられる。また、共用スペースは宅地内道路を結ぶように所々にあり、自動車の進入がない空き地空間となる。そこは、子供の遊び場や憩いの場となり、住宅地の質を高めるものとなることが望ましい。



3
ブロック区割り計画図



4
宅地割付計画図

4 宅地割付計画図

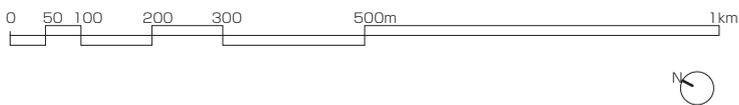
宅地は、Aブロック44戸、Bブロック44戸、Cブロック39戸、Dブロック32戸で合計159戸を計画した。各住宅が、密接しないよう、一戸あたり平均78.9坪の十分なスペースを確保して計画を行った。また、幹線道路と宅地との間には、緑地帯や水路などを設けて、プライバシーの保護や安全性を確保する。幹線道路や共有スペースだけでなく宅地内にも植栽があり、緑が連続して、街区全体が緑豊かなイメージになることが望ましい。



5
水路・調整池計画図

5 水路・調整池計画図

街区内の雨水処理のための水路を幹線道路に沿って通す。水路は、揺るやかな傾斜で、せせらぎのように調整池へと流れていく。また、水路に緑地帯を沿わせ、調整池の周りは、緑溢れる公園として整備する。水路と水辺の公園は、住宅地の質を向上する上で、重要な要素となる。



面積表

計画対象地の全体面積 96550.0 m²

A 幹線道路の合計面積	9503.6 m ²		
1 16m道路	8897.6 m ²	(L556.1)	
2 12m道路	606.0 m ²	(L50.5)	

B 宅地ブロックの合計面積	65339.1 m ²				
			宅地	共用地	道路
1 ブロックA	18079.8 m ²		11042.8	3131.1	3904.9
2 ブロックB	16494.5 m ²		10813.9	1353.5	4327.1
3 ブロックC	16326.6 m ²		10550.5	1738.6	4037.5
4 ブロックD	14439.2 m ²		9301.3	1457.8	3680.1
合計	65339.1 m ²		41708.5	7681.0	15949.6

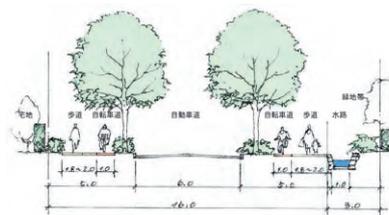
C 公園・緑地の合計面積	14798.5 m ²	
1 調整池まわりの緑地	8036.6 m ²	
2 共用施設用地	4095.5 m ²	
3 コメリ風の公園・緑地	2666.4 m ²	

D 調整池の面積	6908.8 m ²	
1 水面の面積	6908.8 m ²	



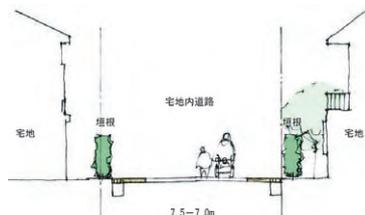
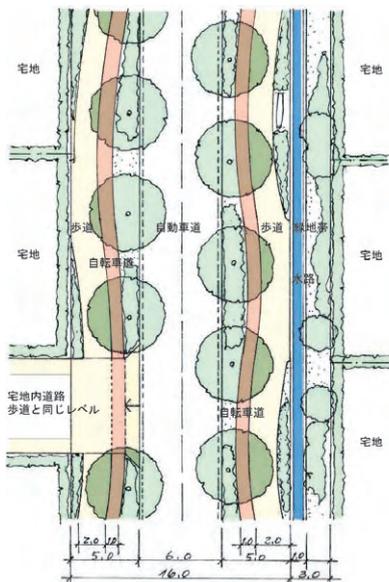
6 街区の部分計画図

田園幹線道路に沿って、水路が流れる。また、宅地街区には共用地又は共有地を設け、緑豊かで快適な住宅地を考える。



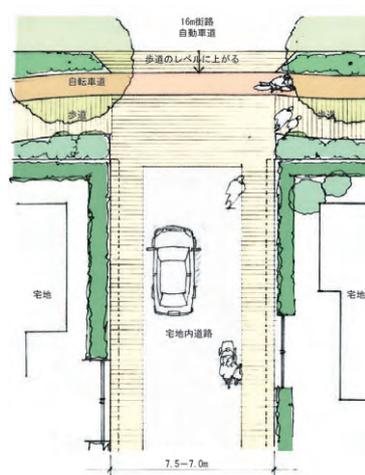
7 16m街路の標準計画図

16m街路は、広い歩道空間が特徴である。歩道には、自転車道、緑地帯、並木道が沿って並び、一部には水路がある。自動車と歩行者とを分け、安全性を確保するだけでなく、美しく質の高い住宅地をつくる緑のインフラ軸となる。



8 宅地内道路の標準計画図

宅地内道路は、基本的に歩車混合交通とし、平面パターン、植栽、ハンブ、舗装などのデザインによって安全性を確保する。舗装はなるべく透水性の素材を用い、冬期の雪処理を考慮する。





公園のイメージ



16m街路のイメージ



宅地内の共用地のイメージ

宅地ブロック内の所々に共用地がある。共用地は、宅地内道路を結ぶ裏路地のような空間である。緑豊かで、風通しがよく、質の高い住宅地をイメージさせる余白のスペースとなる。

なお、イメージの中のキュービクな戸建て住宅は例であり、延べ床面積約200m²の大型タイプである。雪おろしを必要としない耐雪構造を想定している。

9 公共・共用地の考え方

□ 調整池（公園）ブロック

面積

- ・調整池 6908.8m²
- ・周辺緑地（公園） 8036.6m²

水施設

- ・調整池、水路などの水施設については、安全上の配慮の上、景観の良いデザインを工夫する必要がある。
- ・常時、水をきれいに保つために、技術的管理（水の攪拌、ポンプアップによる循環など）が必要。

公園（緑地、散策路、市民ガーデン、温室などの可能性）

- ・池のまわりを美的に修景することで、いこいの場をつくる。
- ・釣りができるようにしてもよい。
- ・田園調布の宝来公園のように、水辺を有する公園には、水生植物が花を咲かせる。
- ・市民ガーデン、温室などを共有し、市民の連帯意識を高める。
- ・JRに面していることから、地区のPRにも直結する。

□ 共用施設ブロック

面積

- ・4095.5m²

コア施設の内容

- ・複合的施設であれば、施設利用頻度が高まる。
- ・集会場は、地区必須の施設であると言われている。
- ・幼稚園、保育園など、子どもが集まる施設は、あたたかいイメージを形作る上で重要である。
- ・子育て支援施設は、室内大型遊具などを備え、雪国における子どもの遊び場として、住民より非常にありがたがられる。
- ・ママパパのために、講師による子育て講座なども催される。
- ・キッズミュージアムなる付帯施設では、絵本作家の原画展や子ども達によるバザーなどが催される。
- ・小さな図書館とカフェなどが併設していれば、さらによい。
- ・オープンスペースを用いて、朝市、フリーマーケットなど。
- ・同じく、子ども菜園で穫れた野菜を、子ども料理教室で食す。

□ 公園ブロック

面積

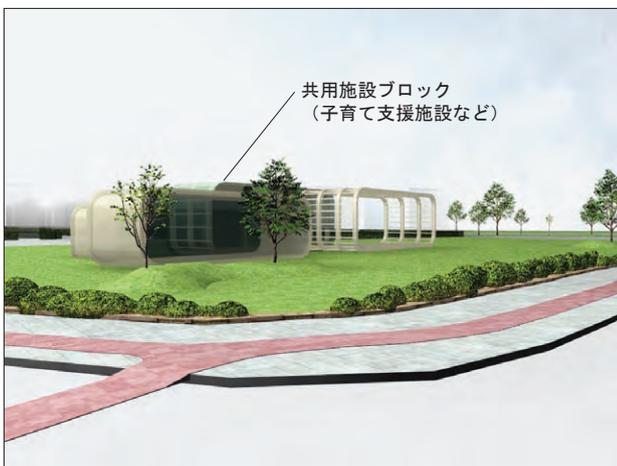
- ・2666.4m²

コメリ脇の異形敷地

- ・コメリの壁面に向かって盛土をし、起伏をつくることで無機的な壁面を修景する。
- ・水路に面する公園緑地ができる。
- ・宅地にする場合、5棟程度となる。



調整池（公園）ブロック



共用施設ブロック



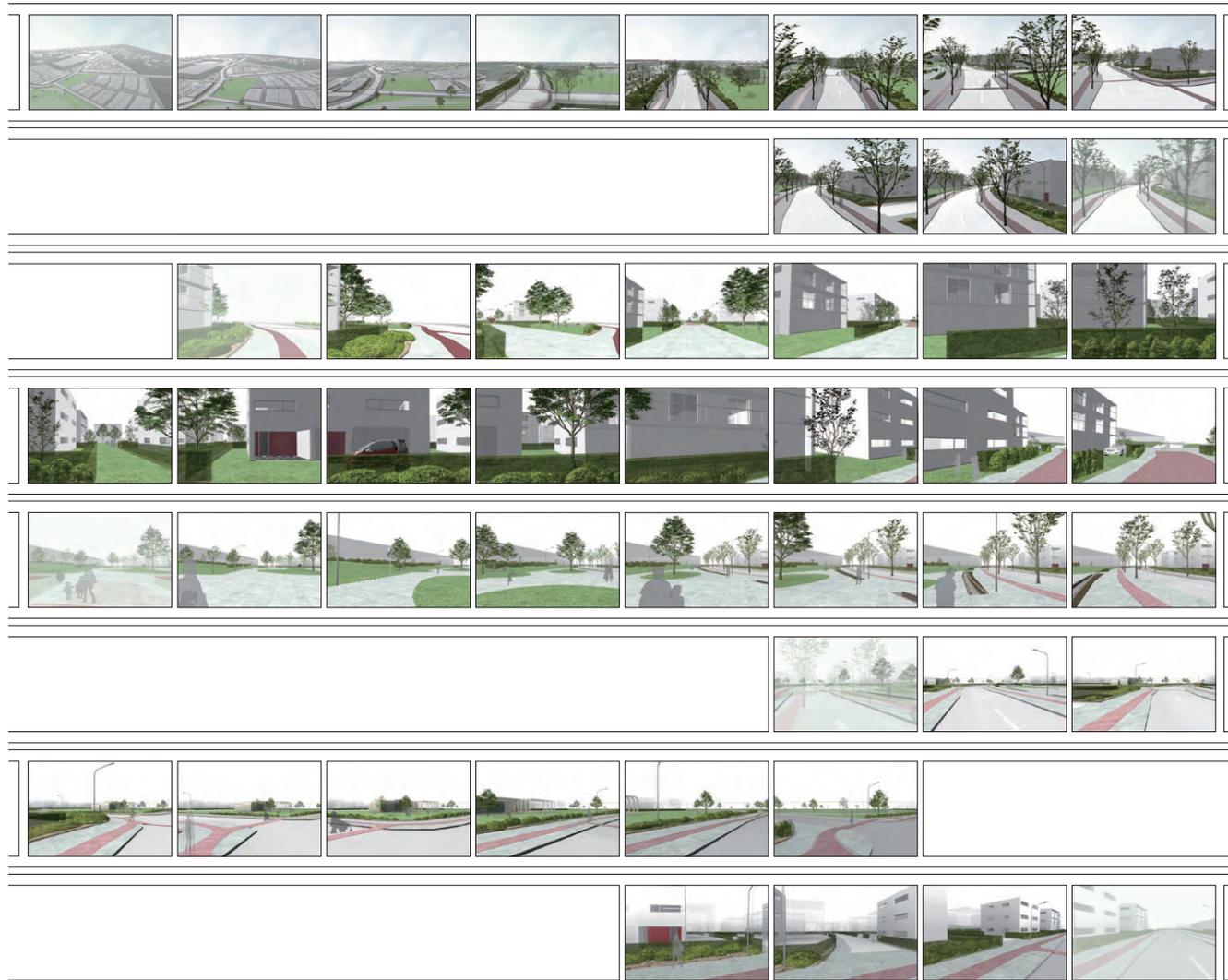
公園ブロック



久住見附市長はじめ関係各位へのプレゼンテーション

いつものとおり、ダブルスクリーンの方にCGムービー（下のコマ画）を投影しながら、もう一方には丹精こめた描画や説明内容を投影し、臨場感を高めた。

□ CGムービー



CGムービーのコマ画

受託事業名：

撰田屋地区街なみ環境整備方針策定業務委託

発注者：長岡市

受託期間：平成19年8月29日～平成20年3月28日

プロジェクト主査：渡辺誠介

プロジェクトメンバー：デザイン研究開発センター研究員：原大輔、工房職員：藤巻光生、学部3年生：高橋達也、学部2年生：荒川景子、長谷川原平、高橋南、目黒啓子

1 街なみ環境整備事業の概要

街なみ環境整備事業は1993年に制定された国土交通省の補助事業である。長岡市では河井継之助記念館周辺地区が第1号であるが、撰田屋地区と旧和島村のはちすば通り地区がこれに続く事業予定地区。この基本計画の策定のため、住民によるまちづくり協議会を組織し、ワークショップ形式で今後おおよそ10年での整備方針をまとめた。

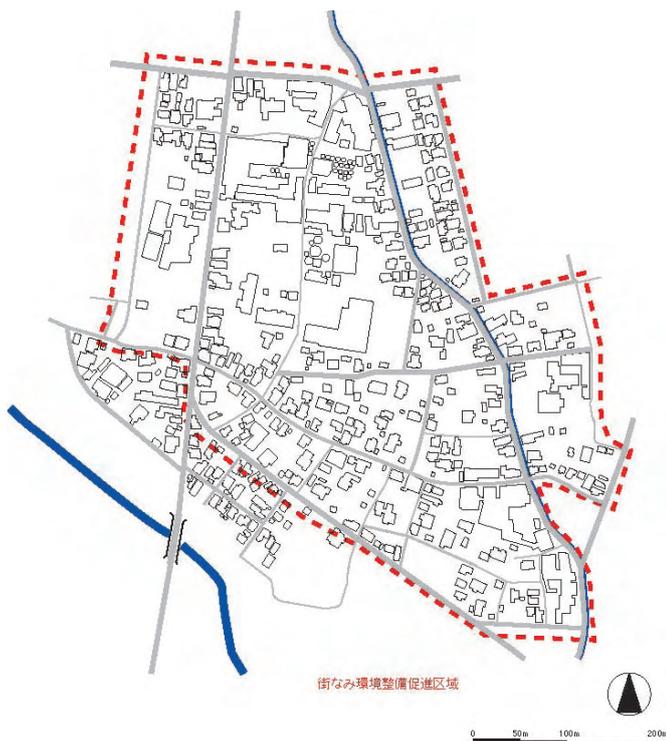
なお、街なみ環境整備事業の概要は以下の通り。

■目的・趣旨

生活大国の実現を図る上で、国民生活に身近な生活道路の整備、景観対策の充実が重要であることから、地区住民の発意と創意を尊重したゆとりのある住宅市街地の形成を図る。

■基本的な考え方

1. 住民参加：地区住民の発意と創意を尊重すること
2. 個性尊重：地区の個性を大切にすること
3. 景観形成：美しい街なみ空間の実現を図ること
4. 自然環境への配慮：自然環境の保全または創出に心を配ること
5. 一致協力：関係者は知恵と情熱を持って取り組むこと



2 まちづくり協議会メンバーの先進地視察コーディネート

8月、9月に各町内会長など、地域のキーパーソンへ、土地の歴史、文化、課題、そして整備方針への意見等のヒアリング調査を行った。

その結果、撰田屋地区のまちづくりの参考となる先進事例としては、長野県、小布施町および須坂市が適当であると判断した。小布施の修景事業地区は、栗菓子、日本酒メーカーの集積から交流人口を呼び込むまちづくりに成功した事例である。須坂市は蔵の街として知られ、街並み環境整備事業に積極的に取り入れている地域である。

撰田屋地区まちづくり協議会のメンバーで上記2箇所の視察を12月に実施した。

視察の結果、須坂の街並み環境整備事業地区は、単なる外観の美装化にとどまり、地域の活性化としては限定的であるという認識がされた。一方、小布施の民間主導のまちづくりはその波及効果が周辺地区にもおよび、撰田屋地区としては参考になる事例であるという意見が多かった。

以上の共通した認識の下に、撰田屋地区の整備方針ワークショップを実施した。

小布施
修景事業地区
視察 (写真上)



小布施
まちづくり
リーダー
の市村氏と
意見交換
(写真下)



3 構想づくりと事業優先順位の意見だしワークショップ

KJ法の手法を用いて、今後の撰田屋地区の整備方針をまとめ「歴史と醸造の文化財に巡りあえるまちづくり」というコンセプトがまとまった。また事業の優先順位として、まずは、長岡市道である旧三国街道の美装化、そしてそれに枝線的に繋がっている赤道の美装化を行いながら、適宜民間の空間をまちづくり協定を結びながら整備する方針が作られた。

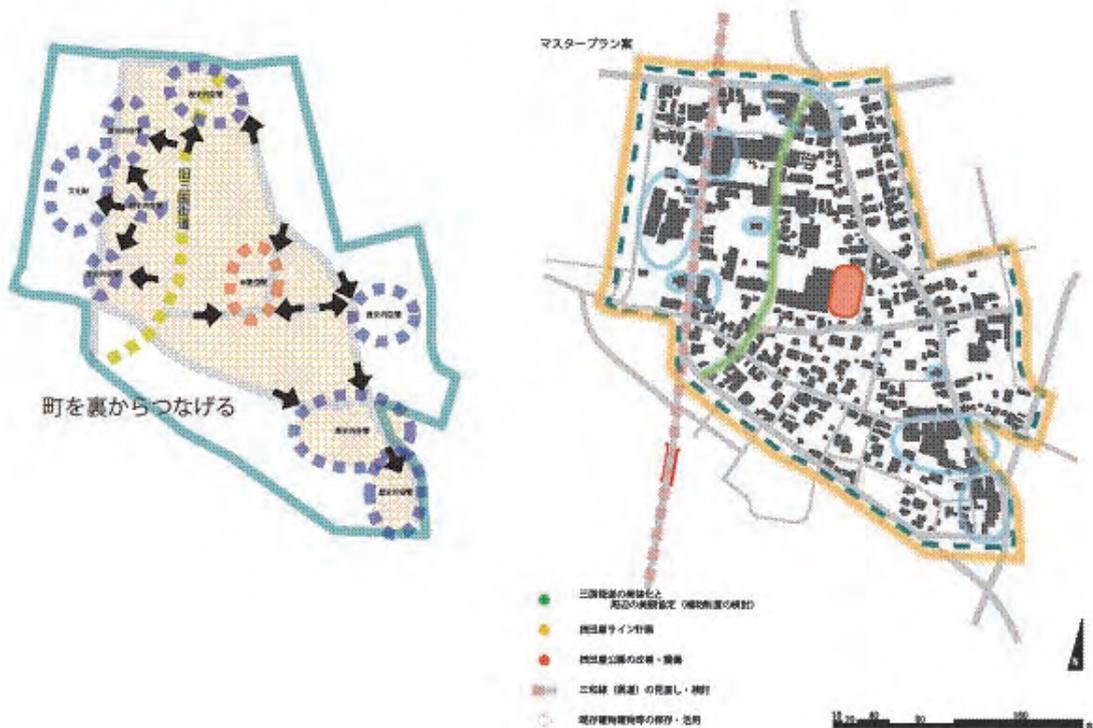


4 今後に向けて

下記のマスタープランに基づいて、今後は旧三国街道の美装化のデザイン案および事業計画と関係者によるまちづくり協定結びが今後、街並み環境整備事業を進めるステップとなる。

4-2 マスタープラン基本方針

「歴史と醸造の文化財に巡り会えるまちづくり」



受託事業名：

天地人「地域活性化シーズ」プロデュース事業業務

発注者：大河ドラマ「天地人」南魚沼実行委員会

受託期間：平成19年12月26日～平成20年3月24日

プロジェクト主査：渡辺誠介

プロジェクトメンバー：藤澤忠盛、吉川賢一郎、非常勤講師：南雲勝志

●昭和19年から64年かけた悲願が実現

南魚沼生まれの戦国武将・直江兼続を主人公にしたNHK大河ドラマ「天地人」が平成21年1月にスタートすることになった。南魚沼では、昭和19年から、有志によって直江兼続を主人公にした小説化を第2回直木賞作家・鷲尾雨工に頼み、生誕碑を建立した。そして現在まで続く「お六甚句」を昭和33年に制作し、地域の祭りで民謡流しとして踊り続けている。お六とは直江兼続の幼名である。

今回の「天地人」の大河ドラマ化も地域の有志で組織される「上田史談会」などが中心となった、不断の運動の結果のものである。

直江兼続を全国区に知らしめ、地域の誇りとしてより高めようという悲願は、戦時中からスタートし、実に64年の歳月を経て大河ドラマとして結実しようとしている。

●大河ドラマ化と地元意識

しかし、こうしたうれしいニュースの裏では、スキー客の減少や、中越地震等の風評被害から、当地域は、特に観光の分野では苦戦を強いられている。

また、南魚沼市内の小学校5、6年、中学1年生を対象に平成20年2月に報告者が実施したアンケート調査結果では、残念ながら、直江兼続の認識度は低く、ほとんど「お六甚句」の由来について知っている児童・生徒はいなかった。NHK大河ドラマで地元の英雄が取り上げられるとして喜々としているのはある程度の年齢以上である可能性が高く、必ずしも地元の子供だからといって理解しているわけではない。このことは、今後の直江を核とする地域活性化の継続性に不安を残すこととなる。

●大河ドラマと地域活性化の可能性

一方、NHK大河ドラマによって、期間中一時的に観光客が増える現象は多く確認されているものの、それをきっかけに地域活性化に弾みがつくケースは少ない。64年の悲願の結実が、期間中のお祭りだけに帰結させるのはあまりに惜しい。

直江や上杉関連で南魚沼と関連他地域を比較すると、終焉の地である米沢には豊富な歴史的資料が残さ

れている一方、一説では15歳までいたとされる南魚沼地域は、具体的な資料に乏しく、ポイントとすべき観光資源は乏しい。

●長浜に学べ

滋賀県、長浜市の中心市街地は、かつて猫が寝ても人がいない、寂れた商店街であった。それが、黒壁の建物保存運動を契機に、現在では観光客数が年間約740万人訪れる地域となっている。

この長浜のまちづくりで黒壁が大きな契機ではあったが、その後、NHK大河ドラマ「秀吉」と「巧妙が辻」の2本の作品がさらに、活性化の契機になっていることが知られている。

具体的には、通常大河ドラマの期間中、大河ドラマパビリオンなるものがゆかりの地で一箇所作られ、そこに大型観光バスが乗り入れるという図式が一般的である。しかし、長浜ではこの二つの大河に関するパビリオンを既存の寺や、空き店舗を複数活用し、来訪者を地域内を歩かせる方式を取った。

通常、この方式は、団体客を大型観光バスで連れてくる観光エージェントには嫌われる方式である。しかし長浜では個人客の行動様式を見込んで、こうした方式を採用した。そして、地域の案内人を50歳以上のプラチナ・ボランティアとして公募したことで、彼らの熱意は、期間終了後、空き店舗活用型の交流施設「プラチナプラザ」設立につながり、人材、空間、両方の活性化に繋がっている。

また、長浜では広域観光連携のプログラムも作られ、大河ドラマがきっかけで、広域観光の活性化のきっかけが作られている。

以上のことから、長浜でのまちづくりリーダーを南魚沼に招聘し、シンポジウムを行って、南魚沼版「天地人」博の考え方の意見交換を行った。

●基本コンセプト：兼続DNA：農を中心とした自然のまちづくり

直江兼続が幼少時の南魚沼は、魚沼という言葉がさすように、沼地でまだ米の生産が難しかったらしい。それを直江が同年代の少年を募って干拓し、現在のコシヒカリの一大産地の基礎を作ったという伝説がある。

直江が後に基礎を作った米沢のまちづくりは、明治初期にイザベラ・バードによって、「東洋のアルカディア(桃源郷)」と激賞される。これは、南魚沼で生まれた直江の「農を中心とした自然を生かしたまちづくり」のDNAが米沢に繋がった結果であろう。

南魚沼での「天地人」博は、上記メッセージを伝え、現在の南魚沼に広域に展開する自然・文化、そして農のすばらしさを体感するリピーターを作る地域づくりの幕開けと位置づけることにした。

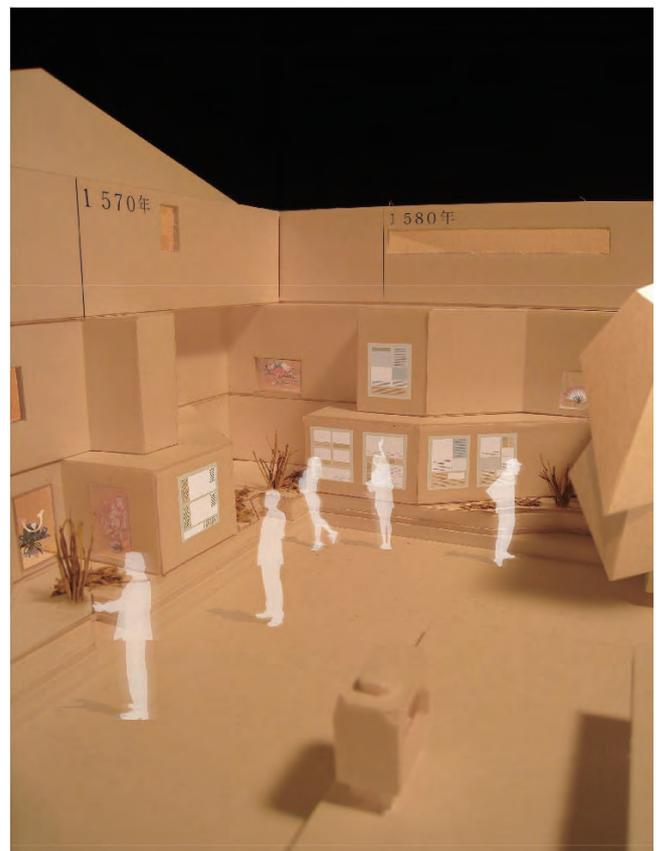
●ロゴデザイン

上杉の家紋は竹に二雀である。「天地人」の主人公は直江兼統とその主人である上杉景勝であり、彼らは主従でありながら、兄弟のように育ったとされる。ロゴのデザインは、南魚沼の自然を代表する八海山と魚野川、そして農をイメージする稲穂、二雀などで表現した。



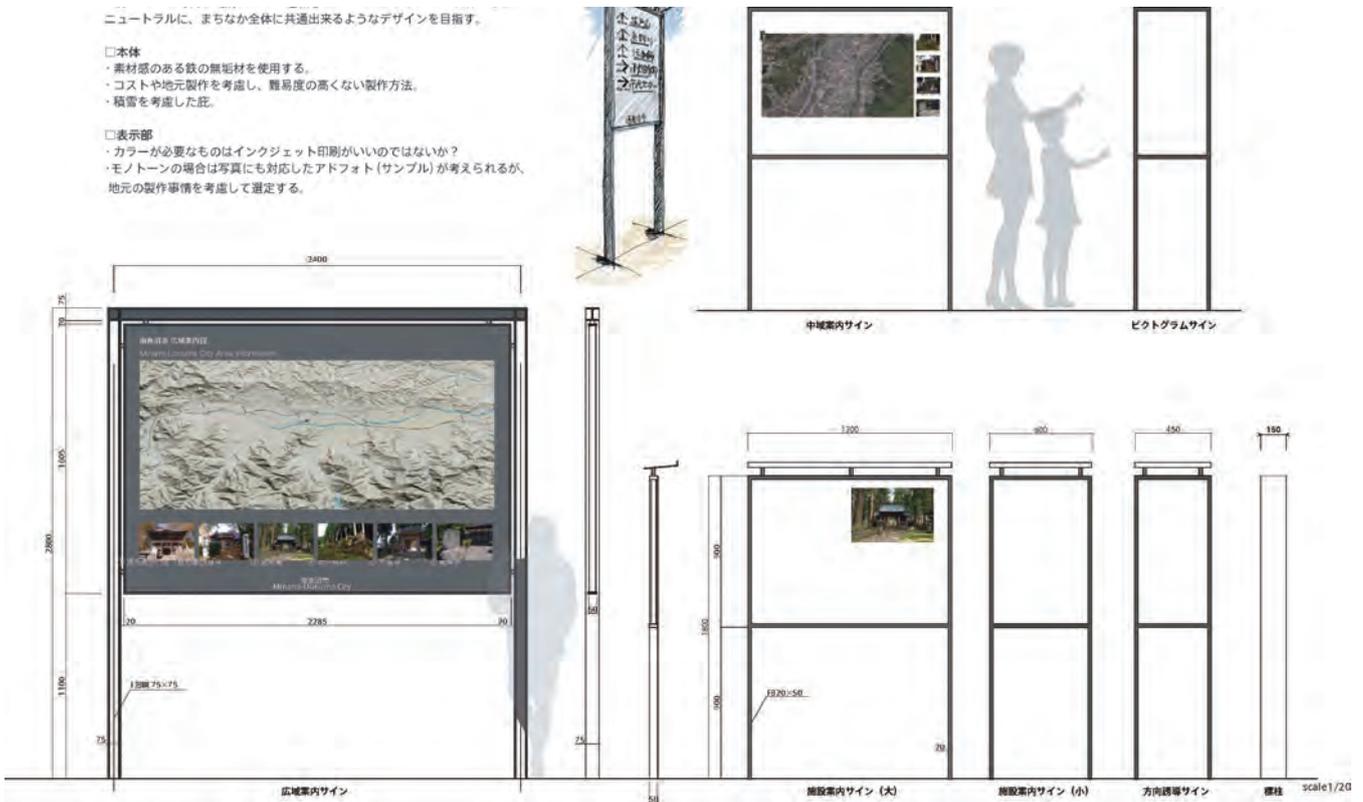
●パビリオンデザイン試案

パビリオンは、南魚沼市役所脇の農協の倉庫の利活用が計画されている。スペースは2箇所あり、NHKブースと地域ブースを計画する予定である。空調のエネルギー調整および雪国をモチーフにすることから、白を基調とした提案を行った。

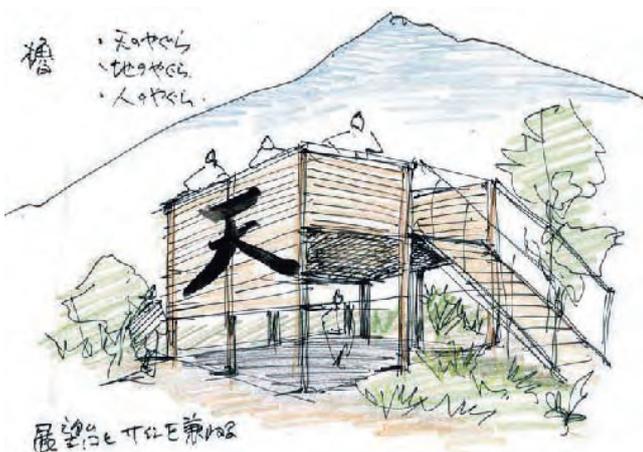


●サイン計画案、魚野川イベント会場案

サイン計画は基本的に、街中設置のものは、ニュートラルで主張せず、情報提供の機能を持つものとした。



一方、イベント会場等で天地人がらみの催しが行われる可能性が高い、魚野川、坂土城では、天地人を意識した分かりやすいサインを視覚化する提案を行った。



2. 地域デザイン活動支援

(1)「新潟国際ビジネスメッセ2007」参加出展

開催日：平成19年11月8日(木)、9日(金)

会 場：新潟市産業振興センター

主 催：新潟国際ビジネスメッセ2007実行委員会

当展示会は、幅広い分野においてビジネス提案を行える企業等を全国から募集し、毎年開催されるものである。デザイン研究開発センターでは、産学間の交流を目的として大学出展コーナーに出展し、平成18年度受託プロジェクトに関するパネル等を展示した。なかでも「レスキューフーズ (ホリカフーズ)」の製品を展示したところ産学連携の成果としてテレビで取り上げられた。



図1 展示風景

(2)「長岡デザインフェア2007」出展

開催日：平成19年10月13日(土)、14日(日)

会 場：長岡造形大学、新潟県立近代美術館

主 催：長岡デザインフェア実行委員会2007

本事業は、1994年を初回に毎年長岡造形大学にて開催され、市民生活の足元からデザインを見直し、地域の産業の振興や青少年のデザインへの関心を高める市民参加型の催しである。今回は、学内の一部にデザイン研究開発センターの成果として「レスキューフーズ (ホリカフーズ)」を展示し、多くの一般市民が足を止めていた。



図3 長岡デザインフェア2007の会場の様子



図2 テレビ放送の様子 (NHK総合テレビ)



図4 展示風景

3. 技術相談・センター広報

(1)長岡産業活性化協議会（NAZE）への協力

長岡造形大学は、平成17年度より長岡産業活性化協議会（以下、NAZE）の会員に加入し、デザイン研究開発センターを中心として地域の産業支援活動に参画してきた。平成19年度には、NAZEとの連携をより強化し、様々な取り組みに協力した。

①情報化部会への参加

NAZEでは、地域内における産産・産学・産官それぞれの連携を強化し、さらなる信頼関係の構築と会員の実利につながるための事業を展開するために、4つの部会を組織し活動を進めている。長岡造形大学は、「情報化部会」に参加し、デジタル・アナログの両面から広報物やWEBなどNAZEからの発信について協議した。



定例の情報化部会の様子（会場 長岡造形大学）

②大学見学会の実施

NAZEでは、長岡のモノづくり技術集積企業間の連携強化だけでなく、技術・意匠・経営を専門とする大学・高専等との有機的な連携を構築し、地域全体としての価値を高めていくための連携強化に向けた活動として、定期的に工場見学会を実施している。長岡造形大学では、教員によるミニ講演を加えた大学見学会を実施し、30名以上の会員が参加した。見学会終了後には、会員との懇親会を行い、更なる連携強化に繋げた。

期 日：平成19年2月27日(水)

内 容：

●ミニ講演

- ・鎌田豊成「デザインの大切さ、おもしろさ」



見学会の様子（上 ミニ講演、下 工房の見学）

- ・松丸 武「モノづくりとデザイン」
- ・和田 裕「プロダクトデザインの世界」

●学内見学（アトリエや工房の見学）

(2)国民生活金融公庫との産学連携の協力推進に関する覚書の締結

地域の産学連携を推進し、地域企業及び地域社会の発展に寄与することを目的に、長岡造形大学と企業との仲介的な役割を担う旨の「産学連携の協力推進に関する協定」を平成19年11月28日付けで締結した。本覚書の締結により、国民生活金融公庫を通し技術・デザイン相談を行うことで、内容により本学への相談及び受託研究の依頼につながることになる。なお、本件は平成17年度の株式会社北越銀行との協定締結に続き、2件目となる。

長岡造形大学デザイン研究開発センターについて

デザイン研究開発センターの概要

1. デザイン研究開発センターの設置経緯

デザイン研究開発センター(以下、センターという。)は、平成6年4月1日に長岡造形大学と同時に、大学付属機関として発足し、現在に至っております。

2. センターの目的

センターは、本学の教育研究成果を広く企業等に伝えると共に、企業等との共同研究を推進することにより、本学の教育研究の発展と地域社会における創造的研究開発の推進に寄与することを目的としています。

3. センターの業務内容

センターでは、次の各号に掲げる業務を行っております。

- (1) 企業等との共同研究及び受託研究
- (2) 企業等との技術者に対する高度技術の教育及び研修
- (3) 企業等に対する学術情報の提供
- (4) 企業等の研究開発にかかる技術相談
- (5) 本学の学生に対する実証的な応用研究開発
- (6) その他、センターの目的を達成するために必要なこと

4. センターの近況

企業から受ける依頼として、将来の新商品に向けた試作品のデザインを依頼される場合もあれば、現在の主力商品のバージョンアップを目的としたものもあり、その内容は多岐に渡ります。一つ言えることは、「デザインの力」を通して将来的な課題を克服しようと試みている企業が年々増えているということです。

一方、地方自治体が進める、住宅地、公園の整備、子育て施設の建設など、公的な事業に対して、大学として関わるケースが19年度は多く見られました。

これは、「デザインの力」が民間のみではなく、公的な事業においても求められているということだと考えます。

デザインの大学として、広く民間から公的機関まで、さまざまな仕事をさせて頂いていることは、大学に対

する期待の大きさを実感します。

また、18年度からの傾向ですが、中越大震災からの復興を目指したプロジェクトが19年度もありました(山古志闘牛場改修に関するものなど)。未曾有の大震災から地域が立ち上がり、復興していくためのお手伝いをさせて頂くことは、大学の大きな目的でもある「地域貢献」の実践であり、大変名誉なことです。

この報告書をご覧頂き、少しでも長岡造形大学に興味を持たれ、何かご相談をお考えの方は、お気軽にご連絡頂けると幸いに存じます。

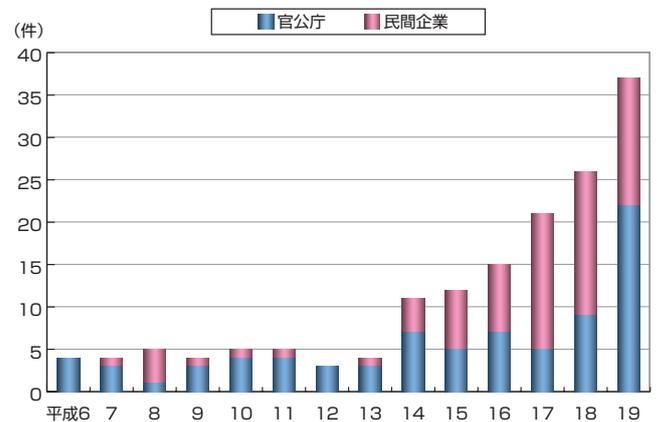


図1 機関別プロジェクト数

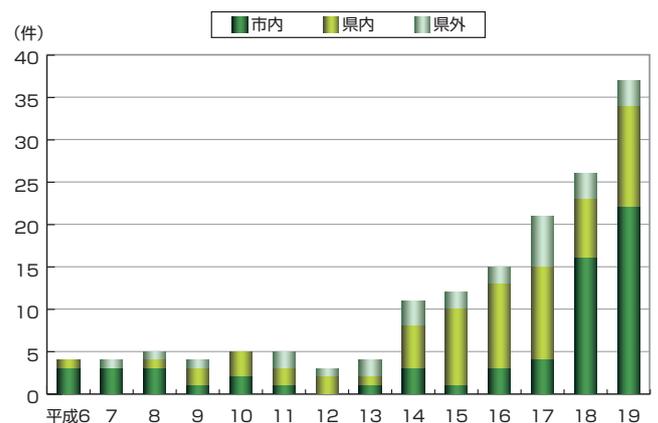


図2 地域別プロジェクト数

5. デザイン相談の受付

長岡造形大学デザイン研究開発センターでは、寄せられたデザイン相談の内容に応じて様々なメニューを用意しています。ご相談は以下のように本学にて対応いたします。

デザイン相談の受付	
デザインに関する相談は、電話・FAX等で長岡造形大学総務課にて随時受け付けています。	
電話	▶ まずはお気軽にお電話下さい。TEL 0258-21-3311(代)
FAX・Eメール	▶ 「デザイン相談申込用紙」にご記入いただきFAX又はEメールにてお送りください。 FAX 0258-21-3312 Eメール d-center@nagaoaka-id.ac.jp



内部協議 ～ 両者打合せ
頂いた相談内容をセンターで把握し、お打合せにて詳細内容を再度お伺いいたします。その後、ご相談内容に沿った最も適当な方策をご提案いたします。以下が主なメニューとなります。



①受託研究・委託によるデザイン提案 委託契約に基づき、担当する教員が調査研究又はデザインを提案いたします。メンバーには学生も参加します。	②外部デザイン事務所の紹介 ご相談内容に応じて外部デザイン事務所を紹介いたします。	③学生コンペ 学生に広くデザイン案をお求めの場合は、本学学生を対象に学内コンペを行ないます。	④教員による専門的アドバイス等 デザイン全般に関して専門的知見からアドバイス及びコンサルティングをいたします。
--	---	--	---



「①委託によるデザイン提案」の場合、以下のとおり業務が進行いたします。

主査の決定 ～ 業務委託契約
ご相談内容に応じて本学教員の中から適任者（主査）を決定します。業務の方法、期間、予算等について、両者で協議を重ね、業務委託契約を締結し、業務がスタートします。ただし、授業その他の学事が優先されますのでご了承ください。



成果物の提出・業務終了
成果物を提出し、委託元の検収後、業務終了となります。

6. センターの担当教員

長岡造形大学の全教員は、デザイン研究開発センターの諸プロジェクトの担当教員であり、各自の専門・研究分野の特性に応じて、プロジェクトに関与します。

なお、以下に本学教員の氏名と専門分野を示しますのでご参照ください。(注：職名及び専門分野は平成20年9月1日現在を掲載しています。)

氏名	専門分野
教授 上山良子	ランドスケープアーキテクチャー、RLA、アーバンデザイン
教授 石原 宏	西洋美術史
教授 上野裕治	ランドスケープ計画・設計、植物生育環境、緑地環境
教授 木村 勉	建造物保存修復
教授 洪 起	耐震工学、信頼性工学
教授 後藤哲男	建築・都市設計
教授 小林 誠	金属工芸(ジュウリーデザイン)
教授 境野広志	工業デザイン
教授 菅原 浩	比較文化論、表象文化論
教授 鈴木均治	テキスタイルデザイン(染色)
教授 土田知也	工業デザイン
教授 長谷川博紀	グラフィックデザイン・広告全般
教授 馬場省吾	金属工芸(鍛金造形)
教授 飛田範夫	日本庭園史
教授 平井邦彦	都市防災
教授 平山育男	建築史
教授 福田 毅	グラフィックデザイン、広告全般
教授 松丸 武	インダストリアル・デザイン
教授 松本明彦	写真、デジタルフォト
教授 森 望	ディスプレイデザイン
教授 森田 守	デザイン／意匠行政論、意匠法
教授 山下秀之	建築意匠
教授 ヨールグ ビューラ	映像、マルチメディア、アート教育
教授 和田 裕	プロダクトデザイン
教授 アンドリユー バン ゴーサム	

TESOL-Teaching English to Speakers of Other Languages

准教授 小林花子	彫刻
准教授 澤田雅浩	都市計画、都市防災
准教授 新海俊一	建築計画、建築設計、情報科学
准教授 高崎賀朗	現代絵画(油彩・ミクストメディア・シルクスクリーン)
准教授 長瀬公彦	グラフィックデザイン、イラストレーション
准教授 長谷川克義	金属工芸(鑄金)
准教授 藤澤忠盛	建築デザイン、空間デザイン、映像デザイン
准教授 真壁友	デジタルデザイン、メディアアート
准教授 渡邊誠介	都市計画、観光とまちおこし
准教授 天野 誠	グラフィックデザイン(エディトリアルデザイン)
助教 吉川賢一郎	グラフィックデザイン

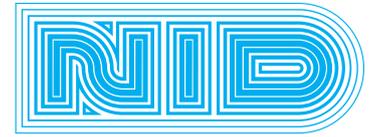
長岡造形大学デザイン研究開発センター 平成19年度活動報告

長岡造形大学
デザイン研究開発センター
940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地
TEL. 0258-21-3311 (代表)
FAX. 0258-21-3312

長岡造形大学ホームページ
<http://www.nagaoka-id.ac.jp/>
Eメールアドレス
d-center@nagaoka-id.ac.jp

Creative Direction : Tsuyoshi Fukuda
Design : Yoshihumi Kuroki

デザイン相談申込書



長岡造形大学
デザイン研究開発センター
TEL 0258-21-3311
FAX 0258-21-3312
E-MAIL d-center@nagaoka-id.ac.jp

この度は、本学デザイン研究開発センターにご相談いただき誠にありがとうございます。
この用紙は、ご相談の参考資料として使用いたします。ご自由にご記入いただき、
FAX又はE-MAILで用紙をお送りください。

申込日	平成	年	月	日
-----	----	---	---	---

申込者	企業名等			
	住所	〒 -		
	TEL		FAX	
	ご担当者		部署/役職	
	E-mail		URL	
デザイン相談分野 (複数回答可)	プロダクトデザイン		建築・環境デザイン	
	<input type="checkbox"/> 産業機械 <input type="checkbox"/> 電化製品 <input type="checkbox"/> IT機器 <input type="checkbox"/> 日用品 <input type="checkbox"/> 雑貨 <input type="checkbox"/> 乗り物 <input type="checkbox"/> ファッション <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 建築設計 <input type="checkbox"/> 空間デザイン <input type="checkbox"/> インテリア <input type="checkbox"/> 景観 <input type="checkbox"/> 調査 <input type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> その他	
	視覚デザイン		美術・工芸デザイン	
	<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> ロゴマーク <input type="checkbox"/> アニメーション <input type="checkbox"/> WEB <input type="checkbox"/> CI <input type="checkbox"/> パッケージ <input type="checkbox"/> 映像 <input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 絵画 <input type="checkbox"/> 金属工芸 <input type="checkbox"/> ガラス工芸 <input type="checkbox"/> 彫刻 <input type="checkbox"/> テキスタイル <input type="checkbox"/> オブジェ <input type="checkbox"/> 木彫品 <input type="checkbox"/> その他	
内容				
業務の形態 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 教員によるデザインワーク <input type="checkbox"/> 学生コンペ <input type="checkbox"/> 学生によるデザインワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 外部デザイン事務所等の紹介 <input type="checkbox"/> わからない			
期間 (スケジュール)	開始時期： (製品化予定、販売予定等)		終了時期：	
ご予算				
備考				

受付日	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	---	---	---	-----	--